

## [講演要旨]地震に備えて私たちができること

株式会社 防災地理調査\* 今村隆正・角谷ひとみ・大石雅之・高田 郁

### § 1. はじめに

筆者らは、日常の調査業務から得た知識と経験を少しでも社会の役に立てられたらという思いから、小学生を対象とした防災教育、一般市民を対象とした防災講義などの防災啓発活動にライフワークとして取り組んでいる。

本発表では、わが国の現状を踏まえ、一般市民を対象とした防災啓発手法についての提案を示す。

### § 2. 災害・防災に関する知識と意識

わが国では、誰もが高い確率で自然災害を経験し得る。特に地震に関しては、日本のどの地域においても起こる可能性があり、切迫した状況下にある。筆者らは、防災講義の際、地震の震度とマグニチュードの違いを理解しているか、阪神淡路大震災で 6,000 人以上の犠牲者を出した主たる原因は何であったか、と問いかけた。ところが、答えられる人が殆んどいないことが現状であった。

このことから、自分または身近な人の生命や財産を守る最低限の知識が広く一般に普及しているとは言いがたいことが判明した。さらに、自分または身近な人が被災しない限り、人々は災害や防災に関して深い意識や関心を持たないと推察される。これは重大な問題である。

### § 3. 一般市民を対象とした防災啓発手法の提案

この現状を打破するために、一般市民に対する防災啓発活動を行う必要がある。しかし、被災経験のない人の場合、「防災」を訴えるだけでは意識面を変えることができない。まず、一人ひとりが身近に起こりうる災害を頭に描き、リアリティを持つことが大切である。そのために、自分が住んでいる土地や地域の特性および過去に発生した災害の実態などを「知る」こと、すなわち基本的な知識を得ることが必要である。

次に、住んでいる地域の特性や災害・防災のことをより深く理解するため、国・自治体主催の防災訓練、勉強会・講習会、学校での防災教育などへ「参加する」ことが重要である。

さらに、被災体験や避難方法などに関し、地域の中で「意見する」ことを通じ、どのようなタイミングで、どこへ、どういった手段で避難するのかといった判断力を徐々に高めていくことが可能となる。

### § 4. 手法の試行とその反響

今回、試行として、地震に関して最も基本的な知識および地震発生時に気をつけるべきことを伝授するパンフレットを作成した。なお、専門家の調査結果(いつ、どこで、どのような災害が発生したのか、その被害や前兆、特徴はどうであったのかなど)を理解しやすい文章やイラストを用いて構成した。

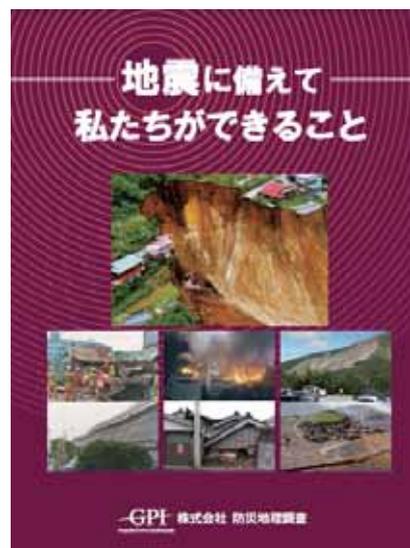


図1 作成・配布したパンフレット

実際に本パンフレットを、一般市民および日頃より「防災」を仕事としている人(専門家)にも見て頂いた。その結果、基本的な知識の部分でも「知らなかった」との反応を多数得た。このことから、基本的な知識の積極的な(地道な)普及を無くしては防災・減災が成立し得ない可能性が示唆される。

### § 5. おわりに

筆者らは今後も、専門家と一般市民との「架け橋」として、基本的な知識を多くの人に理解してもらえよう活動を地道に続けて行きたいと考えている。その際、更により効果的な手法について、皆様からのご意見・ご指導を賜ることができれば嬉しい限りである。

また、歴史地震研究会などの専門家が案内役となり、一般市民参加による、災害痕跡を訪ねる催しなどを行うことも有効ではないだろうか。

\* 〒206-0033 東京都多摩市落合 1-2-5 パステルプラザ 705  
電子メール:info@gpi-net.jp